IJP活用を促進する新製品続々

ミマキエンジニアリング　デザインソフトとウォームラミネーター　4月発売

ミマキエンジニアリングはこのほど、POPやウインドーサイン、シール・ラベルをテンプレートから簡易操作で製作できるデザインソフトウエア「SimplePOP」を発表。小売店などエンドユーザーの活用を見込み、4月から販売を開始する。

同ソフトは、季節やイベント、天候の変化、タイムセールなどによって都度必要となるPOP、店内装飾用の印刷物の製作を支援するもの。利用者は用途に合わせたテンプレートを選択し、テキストや画像の編集が容易に行え、星型など図形の挿入、画像の切り抜きにも対応している。

出力には、隠ぺい性の高い白インクやカット機能を備えたインクジェットプリンタ（IJP）「UCJV300」シリーズを推奨。同ソフトにはカットデータも含まれており、同社は「店舗ごとにオリジナルの印刷物を製造しようとすると、デザイン費用や納期の課題があった。こうした点を克服し、在庫状況などに応じて即座に必要な分だけ出力できるようになる」と有用性を強調する。

初期状態で300種ほどのデザインテンプレートは同社のホームページでも公開されており、使用できる種類は随時更新されていく。年間の販売目標数は、グローバルで1000本を見込む。

また、同社はサイネージ分野に向けてウォームラミネーター「LA-140W Plus」「同160W Plus」も4月から販売を開始する。

同モデルは、2017年11月にリリースした「LA-140W」「同160W」の後継機という位置付け。加工速度は最大で毎分7500㍉、基材厚は最大35㍉まで対応。セット可能な最大基材幅はLA-140W Plusが1380㍉、同160W Plusは1580㍉となっている。

また、新たにラミネート距離を計測可能な「ラミネートカウンター」を搭載。同カウンターによってラミネートフィルムの残数計算を可能とし、あらかじめ設定した距離で自動停止させることもできるため、ミス防止に貢献する。国内限定の販売となり、年間の販売目標数は300台となっている。国内で行われる国際的なイベントを控え、需要増が見込まれるサイネージ分野に向け、プリント面の保護と装飾を施す加工機として訴求していく。

同社はIJP単体にとどまらず、後加工や支援ソフトなど周辺機器を充実させ、裾野の拡大を狙う。

問い合わせは、同社（☎0268・64・2281）まで。

IJPの周辺機器を充実させてウォームラミネーターの新モデル（上）やPOPとラベルなどの製造に有用なデザインソフト「Simple POP」を発表

FOODEX　高付加価値な食品・飲料に資するラベル

（一社）日本能率協会ほか4団体が主催する「第44回国際食品・飲料展（FOODEX JAPAN2019）」が3月6日から9日までの4日間、千葉市美浜区中瀬の幕張メッセで開催。多様な食品や飲料が展示される中、意匠性・機能性に優れたラベル・パッケージ関連の製品も披露され、会期中、8万426人が来場した。

会場では箔押しやエンボス加工を施したSKUラベル、びんに貼付した透明基材のフィルムラベルなど、アイキャッチ効果の高い商品が所せましと並んだ。中でも目を引いたのは、**㈲上田**（大阪市都島区都島本通、☎06・6925・6180）が運営する酒類の専門店「梅酒屋」のブース。卓上サイズの活版印刷機がディスプレーされており、**㈲山添**（大阪市城東区成育、☎06・6939・5551）が同機で手がけたラベルやタグを商品に採用している。梅酒屋の担当者は「不織布に活版印刷を施したラベルなどは注目されやすい」とコメント。

地方創生の事例として、**ほやほや学会**（宮城県石巻市中央、☎0225・25・5602）は、国内外のバイヤーから注目された。ホヤの魅力を伝え需要の活性化を狙う同会は、ホヤを原料にした調味料「海かおるホイスターソース」を紹介。海産物を利用した商品群には、共通のロゴを印刷したラベルが貼付されており、シリーズの統一感を図っている。担当者は「欧州への輸出が増加している」と話す。

資機材関連では、**㈱花王**（東京都墨田区文花、☎03・5630・7642）が水性インク「LUNAJET」で印刷したラベル・パッケージを展示。和紙や合成紙などにプレコート処理不要で高精細な印刷が可能である点を訴求した。ブースでは、100種のラベルから選べ文字入れも可能な洗剤「Myアタック石けん」キャンペーンの説明も行われた。**大王製紙印刷グループ**（東京都中央区京橋、☎03・5524・6673）は、複合機に対応したPET基材「レーザーピーチ」などを出品。耐水性・耐候性に優れた特長を生かし、ワインや日本酒ラベルとしての用途をPRした。

活版印刷による酒類ラベル

地域創生に貢献する商品紹介も

環境負荷を軽減するインクも披露

リコー　合成紙粘着シート対応　プロダクションプリンタで最適な印刷設定

リコーはこのほど、同社製プロダクションプリンタで合成紙の粘着シートへの印刷に対応したと発表。対象となる機種は「RICOH Pro C5200S」「同C7200S」「同C9200」の3機種となっている。

同社は昨年5月、プロダクションプリンタ「RICOH Pro C9110／C9100」などで合成紙への印刷に対応したことを発表し、オンデマンド印刷の活用シーンを拡大した。今回の粘着シートへの対応によって、耐候性・耐水性が求められる選挙ポスターや酒類ラベルといった用途でさらなる需要を見込む。

従来、粘着シートは「粘着剤の溶け出し」「表面基材と剥離紙が異素材であることから生じる搬送不良」などの要因でプロダクションプリンタには不向きとされていた。そこで、同社は熱や静電気などの影響、搬送速度といった諸条件を検証し、合成紙の粘着シートへの印刷に最適なパラメーターを検出。基材ごとに適したマシンの設定を記録する「統合用紙設定システム（IMSS）」によってデータを共有し、常に一定の品質で出力することに成功した。

酒類をはじめ多様な活用シーンが見込まれる

リコージャパンの新規事業本部クリエイティブグループ、早川真一郎リーダーは「合成紙対応の発表後間もなく『粘着シートへの印刷は可能か』といったお声を多くいただき、検証を進めた。実際の印刷に際しては、IMSSによってマシンのパラメーターを設定する必要がある。対応する合成紙のシリーズについてなど、お問い合わせいただければ」と話す。

リコーのプロダクションプリンタは印刷会社をはじめ、極小ロットからのラベル製造を求めるブランドオーナーにも多数導入されており「今後もお客さまのニーズに応える提案を行っていく」（早川リーダー）としている。

問い合わせは、リコーお客さま相談室（☎0120・001・331）まで。

グラフテック　東京・大阪で内覧会　4月の2日間で開催

グラフテック㈱（横浜市戸塚区品濃町、荒川康孝社長）は4月、東京と大阪を舞台に同社のデジタルラベルシステム「LCX1000」の実演内覧会を開催する。

同システムは「少量ラベルを高品質に、何時でも簡単ラベル作成」をコンセプトに、ロール・ツー・ロールで高速・高耐久を実現する電子写真方式のデジタルラベルカラープリンター「DLP1000」とラミネート加工やカット、カス上げなどの機能を搭載したデジタルラベルフィニッシングカッター「DLC1000」で構成されるもの。

LCX1000のモニター制度について説明する内覧会は、4月12日㈮と19日㈮の2日間で開催し、前述した機材に加えて印刷やラミネート加工、カット、カス上げまで行う「LCX603series」や自動給紙モデルのカッティングプロッタ「CE6000-ASF」なども展示予定。

12日は同社東京事業所（東京都中央区日本橋久松町12-8）で実施し、19日は関西事業所（大阪府吹田市広芝町10-28）で催される。両日とも午前9時30分から午後5時までを予定している。なお、入場は事前申込制となり、同社が定める5つの時間帯から、第3希望までを選択する。

東京事業所への問い合わせは、情報機器営業本部（☎03・5847・5201）で、関西事業所は同部（☎06・6821・8821）まで。

インクジェットヘッドの世界

大野インクジェットコンサルティング代表
大野 彰得

第5回「IJの活用事例②」

ラベル業界の概念変え得るIJ技術

インクジェット（IJ）ヘッドの特徴を伝える連載5回目は、いよいよラベル業界にフォーカス。識者から見たIJがもたらす変化について紹介する。

◇◇◇

私は産業用IJの普及を推進する立場ですが、ラベル分野はまだ課題が多いと感じています。すでに高速の電子写真（EP）方式（HPやXEIKONなど）が歴史的にかなりの存在感を築いており、また複合機ベースにした機種（コニカミノルタや沖データなど）や小型レーザープリンタも普及し始めている中で、後発のIJ方式は、その隙間でフィットする市場を懸命に探しているように見えます。

また、一口にラベルと言っても実際には商品ラベル、表示ラベル、ナンバリング等々用途が多岐にわたり、求められる画質も基材も異なります。一つの塊となった大きな市場が見えにくいことが、メーカーとしてIJでラベルプリンタの開発目標の設定を難しくしています。

IJメーカーには「小液滴高解像度が高画質」という発想があり、その方向に沿って小液滴で高ノズル密度のヘッドや、それに対応するインクも開発し、オフセット印刷同等の画質を実現するに至っています。一方、商品ラベルに求められるものは、美しいグラデーションだけではなくインパクトのあるベタであったり、商品の顔として商品棚に並ぶ場合の「色差が無いこと」だったりと、一般の商業印刷とは異なった要求があります。

さらに、箔押しやダイカットなどの後加工も求められ、基材もすでに使われているものをそのまま使いたいという要望も強く、海外のプリンタメーカーの場合は、それに合わせて開発した海外の基材が国内では流通していないなどという事情もあり、結果として既存技術で達成できているレベルになかなか追いつけていないというのが現状ではないでしょうか。

しかし基本に立ち返れば、デジタルは版の付け替えやそれにまつわる段取りが不要で、基材や時間のロスも少なく小ロットには有利なことは確実です。今後は、現在の画質を支えてきた熟練印刷技術者の高齢化という課題もあり、高度な熟練は不要というデジタルの利点も見直されると考えられます。また接触プリントのEPに対して、IJは非接触プリントで柔軟な技術であり、各メーカーやインテグレーターもIJならではの分野を開拓するべく努力を続けています。

セイコーエプソンは特殊なスキャン方式で、速度は多少犠牲にしても、徹底して高画質を目指しています。伊ダーストは高速指向ですが、後日アップグレードが可能な廉価版機を発売し、導入のハードルを下げる動きをしています。また、スイスのガルスはフレキソ機とIJを組み合わせて、それぞれに得意分野を分担させるハイブリッド機を商品化しています。

英国のIIJというインテグレーターは、プリントエンジンなどと称される小型のプリントユニットを、フレキソ印刷機メーカーに供給することで、アドオン方式でハイブリッド機を簡単に開発する支援をしています。さらにこのプリントエンジンを、既にフレキソ印刷機を保有しているコンバーターのラインに後付けで設置することにより、ラベルの可変データ部分の印刷を実現しています。

IJとフレキソの融合も

このプリントエンジンは、ラベルコンバーターのみならず、そこにラベルを発注していたエンド製品の製造工場に直接導入される事例も増えています。また、KHSやMARTINENGHIといった欧州のインテグレーターは、びんや缶などの円筒形の物体に直接プリントできるマシンを開発し、ビールびんや化粧品のラベルそのものを無くしてしまう提案をしています。最近IJ業界で流行しつつある「2・5Dプリント」（盛り上げ印刷）を応用した新しい加飾方法や、箔押しに代わる可能性のあるメタリックプリントの開発も進められています。

大メーカーが技術の粋を結集させて高性能なプリンタを開発する動きと並行して、ラベルの多様性という特徴から、導入先の要望を丁寧に聞いてカスタマイズを行うことができる小規模なインテグレーターにもチャンスが広がっているのが、ラベル印刷の世界といえるでしょう。いつか気付けば、従来の「ラベル業界」という概念が変わっているかもしれません。感度を高くして、IJをウォッチされることをお勧め致す次第です。

▽筆者紹介…大野彰得（大野インクジェットコンサルティング代表）。コニカミノルタ㈱の産業用インクジェット事業の事業部長、執行役を歴任。退社後、現在はインクジェットの普及を促すウェブサイト（https://ohno-inkjet.com）を運営している。

人事・機構改革

トッパンTDKレーベル〈2月22日付〉代表取締役執行役員社長（凸版印刷㈱情報コミュニケーション事業本部総務部長）堀正史▽代表取締役執行役員会長（凸版印刷㈱常務執行役員ICT統括本部長）佐藤友治

サトーホールディングス〈4月1日付〉代表取締役社長兼CEO（代表取締役社長兼CEO㈱サトー代表取締役社長）小瀧龍太郎▽上席執行役員㈱サトー代表取締役社長（執行役員最高健康経営責任者（CWO）PJM事業統括責任者サトーヘルスケア㈱代表取締役社長）小沼宏行▽上席執行役員最高健康経営責任者（CWO）㈱サトー取締役副社長（上席執行役員㈱サトー取締役副社長）笹原美徳▽執行役員最高戦略提携責任者（CAO）（執行役員最高商品企画責任者（CPO））山田倫靖▽執行役員北米・中米統括SATO America,LLC.チェアマン兼CEO（執行役員北米統括SATO America,LLC.チェアマン兼CEO）弓場吾朗▽サトーヘルスケア㈱代表取締役社長（㈱サトー営業本部副本部長）櫻田聡

SCREENグラフィックソリューションズ〈4月1日付〉代表取締役社長執行役員（SCREEN GP Europe B.V.取締役社長）柿田高徳▽取締役（非常勤）㈱SCREENホールディングス上席執行役員石川義久▽㈱SCREEN GPジャパン会長（代表取締役社長執行役員）馬場恒夫▽㈱SCREENクリエイティブコミュニケーションズ会長（取締役専務執行役員）廣瀬哲雄▽執行役員事業統轄部長（事業統轄部エリアサポート部長）白石康人▽執行役員ラベルIJ事業統轄部長ラベルIJ営業部長田中志佳▽㈱SCREEN PEソリューションズ顧問（上席執行役員）六反正道

王子タック〈4月1日付〉代表取締役社長（王子キノクロス㈱代表取締役社長）景山高介

新タック化成〈4月1日付〉代表取締役社長（王子タック㈱代表取締役社長）濱田弘介▽退任（新タック化成㈱代表取締役社長）清水良浩

4/22（月）セミナー開催

変化をチャンスに、
最新テクノロジーで差をつける
ラベル印刷のこれから

4月22日（月）にHPラベルセミナーを開催します。
日々目まぐるしく変化する市場、発注者・消費者ニーズをチャンスと捉え、
最新テクノロジーの活用で他社に差をつけるラベル印刷ビジネスのこれからを考えます。
皆様のご参加をお待ちしております。

日程：2019年4月22日（月）
時間：14:30開始 18:00終了 その後懇親会開催予定
場所：日本HP東京本社（東京都江東区大島2-2-1）
参加申込：参加無料、事前登録制

プログラム

14:30-16:40　基調講演「ラベルで未来を変える」／ラベル新聞社　ゼネラルマネージャー　鈴木 由紀子 氏
HP Indigo新技術・ラベル向け製品・事例紹介／日本HP　ソリューションアーキテクト　土田 泰弘
HPユーザー講演／㈱協同クリエーション　ゼネラルマネージャー　佐藤 俊範 氏
HPユーザー講演／福島印刷工業㈱　マーケティング部　中川 友和 氏
16:45-17:20　特別講演／㈱グーフ　代表取締役CEO　岡本 幸憲 氏
17:25-18:00　HP Indigo 6900デジタル印刷機デモンストレーション
新色シルバー・セキュリティ用インキ、新可変ソリューションを披露

※詳細はウェブサイトをご確認ください。
http://www.hp.com/jp/indigo_label

ラベル新聞　株式会社協同クリエーション
福島印刷工業[株]　goof

〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1　株式会社 日本HPデジタルプレス事業本部　TEL:050-3635-1830　Email:hpjdigitalpress@hp.com